

## 学校支援地域本部を要に大人総掛かりでの「共育」を具現する「榴岡」 ～子供が自らの夢（なりたい自分）をかなえる力を三者協働ではぐくむ～

仙台市立榴岡小学校 前校長 猪股亮文

5,223人。2019年度4月～2月末の期間、学校支援ボランティアとして、私たち教職員と心をつなぐ、榴岡小学校の子供たちと実社会や実生活をつなぐ学びの創造にご尽力くださった保護者や地域の方々の方々の延べ人数です。読み聞かせ、授業支援、体験活動支援、見守り、1年生の生活・学習サポートなど、子供を中心に据え、五千人という多くの方々、私どもと「協働」して子供たちにかかわってくださいました。

学校の内外を通じ、子供を中心に据え、保護者や地域の方々と教職員との連携・協働の「要」となってくださっているのが「子供たちの応援団 榴岡小学校学校支援地域本部」です。本校の「学校支援地域本部」は、実社会や実生活における子供たちの体験の充実を図り、豊かな学びの創出を目指し、2008年度の立ち上げ以来、その理念の具現に向けた営みが脈々と受け継がれており、2011年11月には文部科学大臣表彰の栄に浴すなど、我が国の「学校支援地域本部」の中でも、まさに草分け的存在として、その実績は全国から高い評価を得ています。

さて、2019年度は、これまでどおり「子供たちの応援団 榴岡小学校学校支援地域本部」を「要」としつつも、脳医学研究の第一人者である東北大学教授 瀧 靖之先生をはじめとする学校評議員や学校関係者評価委員の方々からの助言も踏まえ、保護者や地域の方々そして教職員の三者が一体となり、子供が自らの夢（なりたい自分）をかなえる力を「協働」してはぐくむことにチャレンジしてきました。三者協働で子供たちの力をはぐくむうえで、必須となる要件があります。それは、保護者や地域の方々や教職員との間で、三者協働ではぐくむ子供たちの力に係る目的・目標のベクトルを揃えることです。このベクトルが一致することで、子供たちは力を発揮し始めます。本校では、このベクトルを揃えるために、脳医学研究の知見を生かし、「Team Tsutsuji

2019 教育プラン」を策定し、三者が共有する羅針盤としました。このプランは、脳のコンディションを整える生活習慣づくりを基底に据え、学校生活を楽しくする「人間関係形成力」を強化し、実社会や実生活に生きる「主体的に考え、表現、行動する力」を三者協働で培うことを構造化し、明示したものです。

実際、本校においては「夢や目標を持っている」「自分の夢をかなえるためにたくさん勉強する」「十人十色、様々な考えを尊重し合う」「人の役に立つ人になりたいと思う」などの考えをもつ子供たちの割合の数値が、各学年で9割前後となるなど、子供たちのモラルに高まりが見られました。このことから、三者協働ではぐくむ子供たちの力に係る目的・目標のベクトルを揃えることが、子供たちがよりよく育つための、大人総掛かりでの「共育」の起点となる、極めて重要な要件であることが窺えます。

保護者や地域の方々や教職員の「協働」は、子供を中心に据え、子供の育ちとともに、保護者や地域の方々や教職員が子供の「育ち」について共に学び合いながら、子供を含めた四者が人間的な成長を遂げる「共育」の姿が見られるようになることが理想です。本市のこれからの教育の行く末を担う校長には、その「共育」の姿の具現に向け、三者協働ではぐくむ子供たちの力に係る目的・目標を示し、三者のベクトルを揃え、三者が有する力を最大限に引き出すトップリーダーとしての資質・能力が求められます。

